

発達科学シンポジウム [即興・表現・生]

—音楽を中心軸として即興表現の意味を考える—

即興することは、世界に合流し、世界と渾然一体となることなのだ。(ドゥルーズ+ガタリ)

improvisationは、音楽だけでなく演劇やダンスや造形など、ジャンルを超え、さまざまに発展してきている。こんなにジャンルを超えて意味を共有し、生命力を持った概念は他にはないだろう。音楽、美術、ダンス...のようなジャンル分けはもはや前の時代のものに見え始め、それより例えばimprovisationとそうでないものとの差異の方がはるかに有効な視点となるかもしれない。このシンポジウムでは、初めて様々なジャンルにおけるimprovisationを横断的にとらえ、その交流を試みる。

■日時: 2006年8月18日(金) 13:30-17:00 (12:30より受付・途中休憩あり)

■シンポジスト

石村真紀(音楽療法) 岩井正浩(音楽人類学) 江崎将史(即興音楽)

藤本由紀夫(サウンドアート) 堀尾貞治(美術パフォーマンス) 山田衛子(音楽教育)

司会進行: 若尾裕

■会場: 神戸大学百年記念館六甲ホール(神戸市灘区六甲台町1-1)

■参加料: 無料(どなたでもご参加いただけます)

■主催: 神戸大学発達科学部

■募集定員: 約200名(当日入場できますが、なるべく事前にお申込みください。)

■お問合せ/お申込み

e-mail: ywakao@kobe-u.ac.jp (若尾)

TEL・FAX: 078-803-7793 (神戸大学発達科学部若尾研究室)

(留守電の場合はメッセージをお残してください。)

http://homepage1.nifty.com/ERuKa/cmef/frame_j.html

CMF
クリエイティブ・ミュージック・
フェスティバル(同時開催イベント)
シンポジウム終了後、引き続き下記の
日程で開催されます。
2006年8月18日~20日
(藤本由紀夫ワークショップ、江崎将史ワークショップ、
ライブコンサート、トークセッションなど)
詳しくはCMFチラシまたは右記URLをご覧ください。
お問い合わせはこちらでもどうぞ。
kwakao@d6.dion.ne.jp
080-3104-4154

石村真紀

いしむらまき/音楽療法



1967年西宮生まれ。大阪教育大学大学院修士課程(音楽教育学)修了。ロンドン・シティー大学Nordoff-Robbins音楽療法センターにて音楽療法Pgディプロマ取得(1992年)。同志社女子大学専任講師を経て、現在 相愛大学助教授。京都国際音楽療法センター、高槻赤十字病院小児科部音楽療法士(主に発達障害の子どもを対象に臨床を行う)。作曲家

やジャズミュージシャンとの即興ライブも展開。

『即興による音楽療法の実践』(共著・音楽之友社)、『あなたに伝える～音楽療法のエッセンス～生きたセッションを体験するために』(単著・音楽之友社)、『子どものためのプレイソング』(共訳・編 音楽之友社)など。

岩井正浩

いわいまさひろ/音楽人類学



日本および諸外国における諸民族音楽を主たる調査対象とし、人間と音楽の関わり合いの研究を行い、人間はなぜ音楽表現行動を行おうとするのか、音楽と関わりをどう得ないのか、祭りにエネルギーを燃焼させるのかといった根源的課題とパフォーマンス・アーツにアプローチをしている。主たる地域はハンガリーなどの中・東欧、インドネシアなどの南・東南アジア、高知県をはじめとする四国各県、沖縄県などの南西諸島である。また

継続調査としては、1970年から実施している通時的子どもの遊び調査(東京都・長崎県杵岐・大阪・那覇市・愛媛県)があり、現在は黒潮ラインとしてのインドネシアから沖縄、奄美、徳島、高知にいたる祭り・民俗芸能の伝播・創造や、新しい都市の祭りとしての高知よさこい祭りを調査・研究している。神戸大学教授。

江崎将史

えざきまさふみ/即興音楽



撮影/井上嘉和

1996年より即興を軸にするライブ活動始める。トランペットを金属の管であると再定義し独自の奏法を数多く開発。また身の回りの生活廃品などを使用。録音物に、顕微鏡で覗いたかのような微小音をトランペットや生活廃品よりピックアップしたものなどがある。即興演奏では、ソロのほか、秋山徹次、宇波拓、大蔵雅彦、大友良英、Yuko Nexus6、カン・テ・ファン、ラドゥ・マルファッティ、アクセル・ドナーなど国内外の多くのミュージシャンとセッション、録音を重ねる。またアキビン吹奏、アキビオオーケストラを主催。他に山本信記とのトランペットデュオ、15秒から1分ほどの曲をつらつらならべる OMM-pah 同じく、山本とオルガンの喜多村朋太とのチェンバースカバンド popo がある。

堀尾貞治

ほりおさだはる/美術パフォーマンス



1939年神戸市生まれ。神戸市兵庫区在住。1965年前衛芸術家集団「具体美術協会」会員となり、72年の解散まで参加活動。85年ごろより「あたりまえのこと」というタイトルの活動を続ける。「あたりまえのこと」は、毎回異なるパフォーマンスを毎日行うというもの。芦屋市立美術博物館での個展「あたりまえのこと」(2002)をはじめ、年100回ほどの展覧会を開く。2005年は、9月～12月横浜トリエンナーレ2005「アート・サーカス」ほか。

藤本由紀夫

ふじもとゆきお/サウンドアート



1950年名古屋生まれ。大阪芸術大学音楽学科学科。70年代よりエレクトロニクスを利用したパフォーマンス、インスタレーションを行う。80年代半ばよりサウンド・オブジェの制作を行う。音を形で表現した作品を個展やグループ展にて発表。その作品をつかったパフォーマンスを行うなど、空間を利用した独自のテクノロジーアートの世界を展開している。

10回シリーズで企画された1年に1回、1日だけの展覧会「美術館の遠足」(西宮市大谷美術館)は、2006年に10年目を迎えた。

山田衛子

やまだえいこ/音楽教育、即興演奏



シャンと共演。

訳書：L. フリーデマン「おとなと子どものための即興音楽ゲーム」(音楽之友社)

1939年神戸市生まれ。神戸市兵庫区在住。1965年前衛芸術家集団「具体美術協会」会員となり、72年の解散まで参加活動。85年ごろより「あたりまえのこと」というタイトルの活動を続ける。「あたりまえのこと」は、毎回異なるパフォーマンスを毎日行う

発達科学シンポジウム

[即興・表現・生]

—音楽を中心軸として即興表現の意味を考える—

■日時:2006年8月18日(金) 13:30-17:00

(12:30より受付・途中休憩あり)

■会場:神戸大学百年記念館六甲ホール

(神戸市灘区六甲台町1-1)

■参加料:無料(どなたでもご参加いただけます)

■主催:神戸大学発達科学部

■募集定員:約200名

当日入場できますが、なるべく事前にお申込みください。

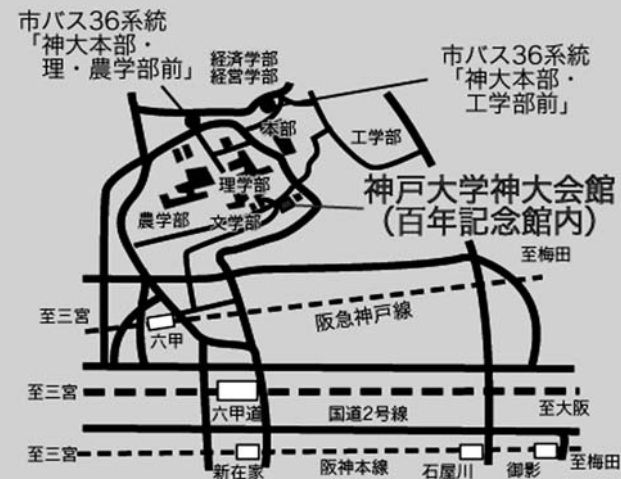
■お問合せ/お申込み

e-mail:ywakao@kobe-u.ac.jp (若尾)

TEL・FAX: 078-803-7793

(神戸大学発達科学部若尾研究室)

留守電の場合はメッセージをお残しください。



- 阪急神戸線「六甲」駅、JR神戸線「六甲道」駅、又は阪神本線「御影」駅から、市バス(36)系統「鶴甲団地」行きに乗車、「神大文・理・農学部前」もしくは「神大本部・工学部前」下車。(阪急六甲駅から約10分、JR六甲道駅から約15分、阪神御影駅から約20分)
- 新幹線「新神戸」駅から、タクシーで約15分